

2024年1月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第102回

＜幸運を招く高い志＞

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

元旦は、心を新たにして今年の無事や幸運を願う節目の機会ですが、特にモノ造り企業にとっては、既存主力製品の改良や市場開発に向けた新製品開発等、毎年外せないテーマについては今年も計画通り順調に進んで欲しいものです。

新製品開発の場合、自然界の生物からヒントを得て成功した事例も多く、飛ぶ鳥を参考にして発明されたとされる飛行機や、最近の身近な事例では、蚊を模倣した痛みの少ない注射針（マイクロニードル）、泳ぐサメの肌の特徴を模倣して水の抵抗を低減した水着（ファーストスキン）などがあります。

このように生物模倣による新製品の開発事例は他にも多く存在し、Wikipediaによると、古代ギリシャ語由来とされるバイオミメティクス (biomimetics) とは「生物の構造や機能、生産プロセスを観察、分析し、そこから着想を得て新しい技術の開発や物造りに活かす科学技術」と説明しています。又、生物に限らず、私たちをとりまく身近な自然現象からヒントを得て生産性向上や新製品の開発・改良に結び付いた事例は非常に多く存在しており、これらは人類の歴史が物語っています。自然界は正に知恵の宝庫です。

元旦はビジョンの実現に向けて、人や組織の志（心の持ち方）を再確認する絶好の機会でもあります。高い志が有する探究心は、自然界との積極的な対話に結び付く事があり、自ずとイノベーション創出に繋がる幸運を招くようです。

本年も昨年同様ご愛顧頂きたく、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

＜偶然の発見には理由がある＞

「幸運は用意された心の中に宿る」。細菌学を切り開いたフランスのルイ・パスツールはこう語ったとされる。試行錯誤や努力を重ねて技能を磨いていなければ、チャンスを引き寄せてつかむことはできないという格言だ。～途中略～

2000年のノーベル化学賞を受賞した筑波大学の白川英樹名誉教授も学生の実験結果から「プラスチックは電気を通さない」という常識に疑問を持ち、先入観なく研究を続け、導電性高分子の開発につなげた。同じ画像やデータ、結果をみても、疑問に思わなければ発見にはつながらない。こうした科学者の姿勢は新たな製品や事業などビジネスの世界でも通用するのではないか。

— 出典：「日本経済新聞 23/11/12 付朝刊・科学の扉欄」青木慎一 編集—